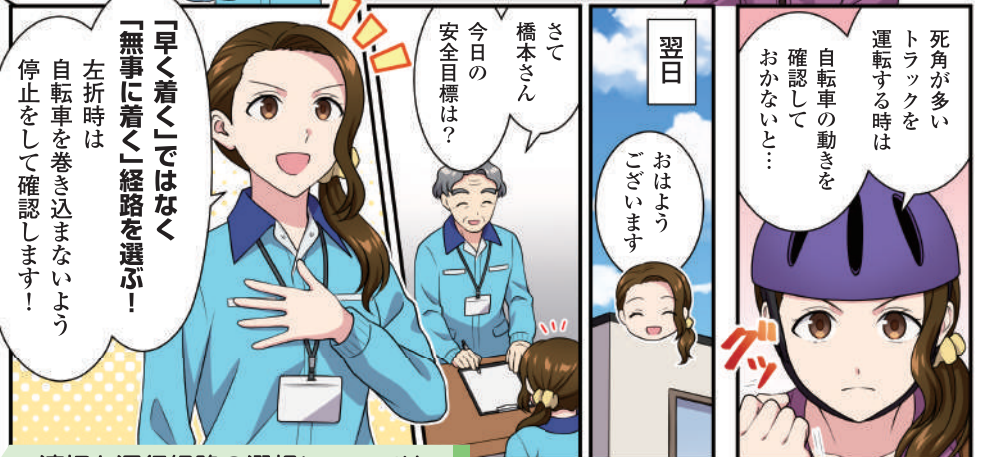
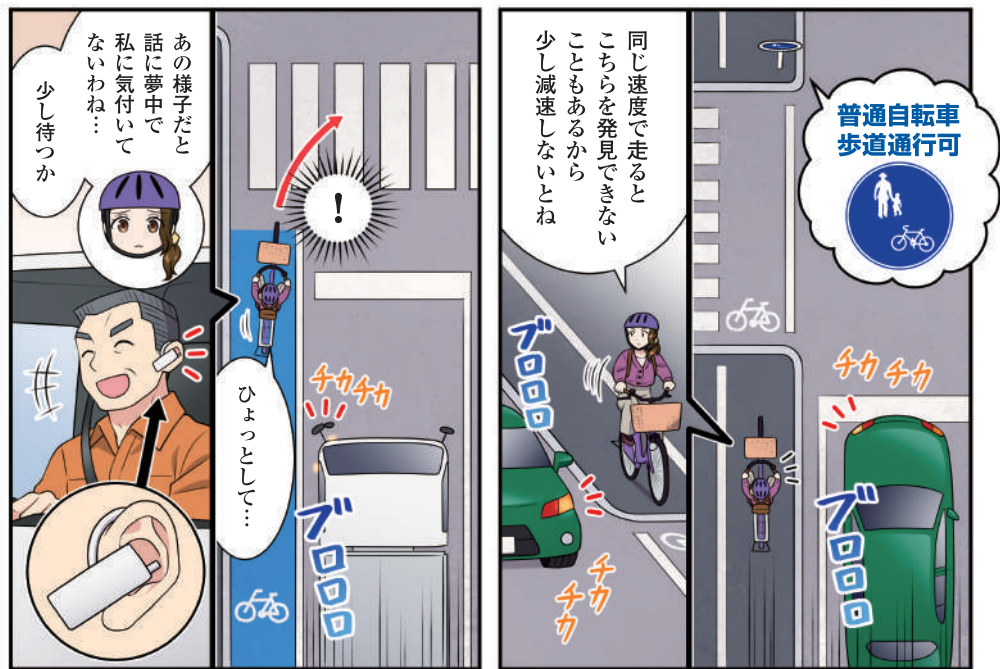


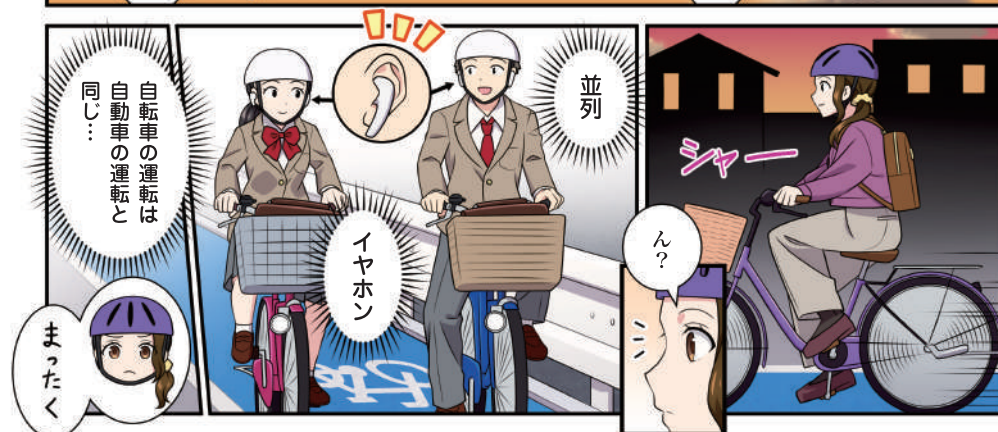
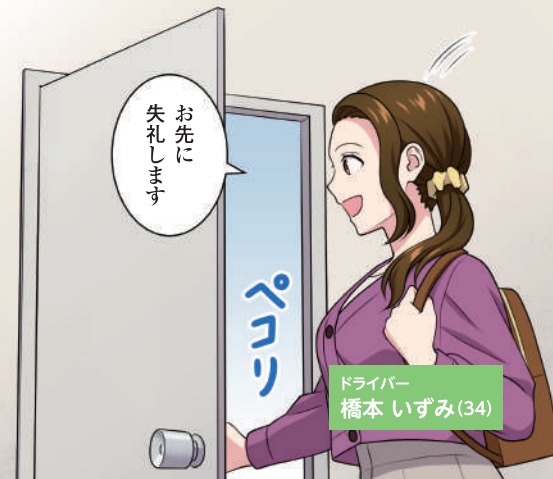


適切な運行経路の選択については解説ページで

…今日も快晴!… トラックドライバー日誌

「安全・安心」に欠かせない取り組みを、サンライズ運送に勤めるスタッフたちそれぞれのエピソードを通じて紹介。

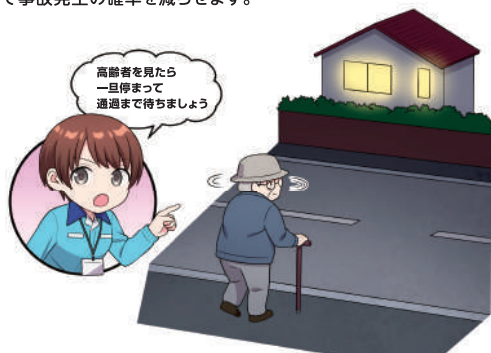
第43話 適切な運行経路の選択は 安全運行への第一歩



適切な運行経路の選択は
安全運行への第一歩

運行経路上の高齢者が集まる 「時間帯・場所」を想定

事前に経路上にある病院や介護施設などの所在地を把握し、そして高齢者の行動を予測した運転によって事故発生の確率を減らせます。



高齢者は車両通過の直前・直後に、
横断歩道がないところで横断するかも・・・

マンガ制作: ad-manga.com

残念ながら子どもと同様に、高齢者が関連する事故が後を絶たない状況です。特に秋以降は高齢者の予期せぬ行動もさることながら、寒さを感じるにつれて衣服の色が「黒や紺などの濃い色」が多くなり、ドライバーから認識しにくくなるため配慮と対応が必要です。

そこでハイビームを積極的に活用し、無理な横断をしよつとする高齢者を早期に発見しましょう。夜間走行時に最も簡単に効果がある安全対策は、「できる限りハイビーム走行」です。写真を撮る時の「ハイ、チーズ」と同じように「ハイ、ビーム」。夜間運転時には、ライトは「ハイ」、速度は「ロー」をお願いします。

秋から冬にかけては高齢者への配慮を

死角が多いトラックは、左折時には自転車との接触が多く、一方、右折時には歩行者との接触が多くなる傾向にあります。曲がる際に優先すべき手順は「①停まる→②見る」です。逆に「①見る→②停まる」の順だと、「いない」と思っていた横断者がいた場合には、停まらず事故になりかねません。

自転車の場合、予測不能なトリッキーな動きをしたり、意外な方向にいざなり進路を変えたりすること。そのような自転車と接触しても、タイヤの数が多い乗り物に乗っている方の過失割合が高まります。特に左折時には自転車の巻き込み確認をした上で、横断歩道上は「十分に減速してゆっくり」通過するように。自転車運転者とは、車道を走る仲間として競走するのではなく、共存を目指しましょう。

自転車と競走ではなく、共存を

死角が多いトラックは、左折時には自転車との接触が多く、一方、右折時には歩行者との接触が多くなる傾向にあります。曲がる際に優先すべき手順は「①停まる→②見る」です。逆に「①見る→②停まる」の順だと、「いない」と思っていた横断者がいた場合には、停まらず事故になりかねません。

油断からの「わき見運転」防止のために、 スマホなどは手に取れない場所に置いておく

初めての道ではなく「経路を把握しているいつもの道」でも、慣れによる油断に注意！
スマホを使う「ながら運転」のきっかけになることも。



スマホはバッグに入れたり、漫画や雑誌など仕事に
無関係なものは車内に持ち込まない

安全に「近道・早道・抜け道」はなし

一般道における運行経路の選択はドライバー任せ、つまり「自由」であることが多くあります。しかし、その選択を歩間違えれば重大事故につながり、それが社業に影響すること。よって経路選択とは、ドライバーに任せられた経営判断といえるかもしれません。

経路選択は「早く着く」経路ではなく、「無事に着く」経路を優先させましょう。安全に近道・早道・抜け道はなしです。例えば、信号がある道は信号待ちの時間が生じるもの、停止線のみ道と比べて周囲のドライバーが交通ルールを守る確率が高いため、安全な道だと判断できます。また、歩道のある広い道や街灯のある明るい道を選択することも、「無事に着く」経路としてふさわしいといえます。

初めて通る道では案内板やナビを見続けることがないよう、事前に経路を把握しておきましょう。「まずはここまで」と目的地を区切りながら運行することで、経路の把握が容易になり、同時に適度な休憩にもなるのでお勧めです。

漫画で学ぶ法定12項目シリーズ 「適切な運行の経路及び該当道路における 道路及び交通の状況」

ドライバー指導の際に義務づけられている法定12項目について、漫画と解説でポイントを紹介していきます。
今回は「適切な運行の経路及び該当道路における道路及び交通の状況」です。



高柳 勝二 (たかながき かつふみ)

株式会社 プロデキューブ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社 プロデキューブ設立。中小運送会社からの依頼が多い「提案型」研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい・眠くならない・分かりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度から2022年度まで国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。